

製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名：ニューブリーチ食添 (6%)

会社名：ライオンハイジーン株式会社

住所：東京都台東区蔵前1-3-28

電話番号：03-3616-3159

FAX番号：03-3616-3208

担当部門：企画開発部 研究所

緊急連絡先：03-3616-3159

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途：漂白剤 (野菜・果物、厨房の衛生用)

使用上の制限：推奨用途以外で使用しない

2. 危険有害性の要約

GHS 分類：

健康有害性	：皮膚腐食性／刺激性	区分1
	眼に対する重篤な損傷／眼刺激性	区分1
	特定標的臓器毒性 (単回ばく露) (1)	区分2 (呼吸器系)
環境有害性	：水生環境有害性 短期 (急性)	区分1
	水生環境有害性 長期 (慢性)	区分1

※物理化学的危険性、健康有害性、環境有害性に関し、上記以外の項目は現時点で「分類できない」又は「区分に該当しない」である。

GHS ラベル要素：

絵表示又はシンボル：



注意喚起語：危険

危険有害性情報

H314 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷

H318 重篤な眼の損傷

H371 臓器の障害のおそれ

H400 水生生物に非常に強い毒性

H410 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

注意書き

安全対策

P280 保護手袋/保護眼鏡/保護面を着用すること。

P260 粉じんまたはミストを吸入しないこと。

P264 取扱い後はよく洗うこと。

P270 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

P273 環境への放出を避けること。

応急措置

P303 + P361 + P353 皮膚（または髪）に付着した場合：直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと/取り除くこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。

P305 + P351 + P338 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

P310 直ちに医師に連絡すること。

P301 + P330 + P331 飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

P309 + P311 暴露した時、または気分が悪い時は、医師に連絡すること。

P391 漏出物を回収すること。

廃棄

P501 内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

組成及び成分情報

物質の特定単一製品・混合物の区別：混合物

成分名	CAS No.	化審法	濃度又は濃度範囲(%)
次亜塩素酸ナトリウム	7681-52-9	1-237	約 6%
水酸化ナトリウム	1310-73-2	1-410	非開示

4. 応急処置

吸入した場合

- 1)分解して発生した塩素ガスを吸入した場合は、被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移動させ、次のような処置をする。
- 2)咳がでる程度の時は、新鮮な空気の風通しのよい場所で身体を楽にして休息させる。
- 3)塩素ガスで眼を痛めた時は、直ちに水道水で少なくとも 15 分間以上洗眼し、医師の診断を受ける。
- 4)重症の場合は、直ちに医師の診断を受け、その指示に従う。

皮膚に付着した場合

直ちに汚染された衣服を脱ぎ、多量の水で洗い流す。異常のある場合は、医師の手当てを受ける。

目に入った場合

直ちに多量の水で 15 分以上洗い流し（瞼の隅々まで）、速やかに医師の手当てを受ける。

この場合、清浄な微温湯が容易に得られる場合は疼痛を軽減する点で冷却洗浄よりも効果がある。

飲み込んだ場合

万一、飲み込んだ場合は、直ちに口の中を水で洗浄し、無理に吐かせないで、速やかに医師の診断を受ける。

最も重要な徴候及び症状：情報なし

応急措置をする者の保護：情報なし

医師に対する特別な注意事項：情報なし

5. 火災時の措置

消火剤

適切な消火剤

大量の水により消火する。

使ってはならない消火剤

酸との接触により有害な塩素ガスを発生するので、炭酸ガス、酸性の粉末消火剤は避ける。

火災時の特有の危険有害性：情報なし

特有の消火方法：周辺火災の処置は次による。

- 1) 容器を安全な場所へ移動する。
- 2) 移動不可能な場合は、容器及び周辺に注水して冷却する。

消火を行う者の保護

消火作業の際は、ゴム製防護衣、ゴム製保護手袋、ゴーグル型保護メガネ、ゴム長靴、空気呼吸器など適切な保護具を着用する

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

きわめて腐食性が強いので、必ず保護具を着用する。

環境に対する注意事項

多量に漏れた場合は、河川等に排出されないように、回収、詰め替え、還元分解などの措置を講じる。

封じ込め及び浄化の方法・機材

土砂等で流出防止用の堤防を作り、空容器に回収するか又は土砂等に吸収させてから容器を回収する。できるだけ取り除いた後、漏出した場所は、大量の水で洗い流す。必要なら亜硫酸ナトリウムを用いて分解してから多量の水で洗い流す。

この場合濃厚な廃液が下水溝、河川等へ流入しないよう注意する。

二次災害の防止策

- 1) 周辺地域の住民に直ちに警告し、危険地域から避難させる。
- 2) 周囲住民、交通機関等に影響を及ぼす可能性のある場合は、関係官庁及び当社の緊急連絡先へ通報する。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い

技術的対策

局所排気及び全体排気設備を設ける。保護具を着用し、眼、皮膚への接触を避ける。

局所排気・全体換気

局所排気及び全体排気設備を設ける。

注意事項

- 1) 屋外又は換気の良い区域のみで取扱うこと。
- 2) 「2. 危険有害性情報」を熟知し、人体との接触を避けること。
- 3) 可燃物、アセチレン、エチレン、水素、アンモニア、微細金属との接触禁止。

安全取扱い注意事項

- 1) 作業中に温度が上昇したり、重金属類の混入があると分解し酸素ガスを発生する。
- 2) 酸と接触したり、pHが低下すると塩素ガスの発生が起きるので注意が必要である。

保管

適切な保管条件

- 1) 直射日光を避け、品質（有効塩素）維持のため、20℃以下に保ち貯蔵するのが望ましい。

- 2) 重金属類 (コバルト、ニッケル、クロム、銅、鉄など) が存在するとそれらが触媒となり、分解を促進するため、貯蔵する容器内にこれらの重金属類が混入しないようにする。
- 3) 貯槽は樹脂製または鉄板製のタンクの内面に耐食性材料をライニングまたはコーティングしたもの、あるいは耐食性材料で製作したものを使用する。腐食性が強いので鉄製のものは使用できない。チタンあるいは硬質塩化ビニルなどの樹脂系のものがよい。ゴム製のものは長期間には膨潤するものもあるので注意を要する。
- 4) 貯槽への受入配管は、他の配管と区別し、次亜塩素酸ソーダ用受入口には、見易い個所に品名を表示する。容器は高圧ガス保安協会指針に基づき、1年以内に使用後は速やかに販売事業者へ返却すること
- 5) 「10. 安全性及び反応性」を参照し、混触危険物質との接触を禁止する。酸、金属類、可燃物等から離して保管する。

安全な容器包装材料

- 1) 金属類、天然繊維の多くを侵す。
- 2) 腐食性があるので鉄製の容器は使用しない。
- 3) 塩ビ、ポリエチレン、チタン、PTFE等を使用する。

8. 暴露防止及び保管上の注意

設備対策：局所排気及び全体排気設備を設ける。

管理濃度：設定されていない

許容濃度

日本産業衛生学会 (1998年版)	: TWA 1ppm (asC12)
ACGIH (1998年版)	: TWA 0.5ppm (asC12) STEL 1ppm (asC12)
OSHA (1993年版)	: PEL 天井値 1ppm (asC12)

保護具

- 呼吸器の保護具 : ハロゲンガス用防毒マスク、空気呼吸器
手の保護具 : 保護手袋 (不浸透性)
目の保護具 : 密着型保護眼鏡
皮膚及び身体の保護具 : 不浸透性保護衣、ゴム長靴、ゴム前掛

9. 物理的及び化学的性質

- 外観 (物理的状态、形状、色など) : 淡黄色透明液体
臭い (臭いの閾値) : 塩素臭
pH : 11.9 以上
融点/凝固点 : なし
沸点、初留点と沸点範囲 : データなし
引火点 : データなし
自然発火温度 (発火点) : データなし
燃焼性 (固体、ガス) : 該当しない
燃焼又は爆発範囲の上限/下限 : データなし
蒸気圧 : データなし

蒸気密度	: データなし
蒸発速度	: データなし
比重 (相対密度)	: 比重 (20°C) 約 1.072
溶解性	: 水に可溶
オクタノール/水分配係数	: データなし
分解温度	: データなし
その他のデータ	: データなし

10. 安定性及び反応性

安定性

空気、熱、光、金属などに極めて不安定で、放置すると徐々に分解し有効塩素を失う。

危険有害反応可能性

自己反応性、爆発性なし

避けるべき条件

腐食性があるので鉄製の容器は使用しない。

混触危険物質

アミン類やアンモニアと反応して有害で爆発性の三塩化窒素を発生する。

酸との接触やpHの低下により塩素ガスを発生する。

危険有害な分解生成物

酸との混合により塩素ガスが発生する。

その他

情報なし

11. 有害性情報(GHS 混合物分類判定ラベル作成システム NITE-Gmiccs による)

急性毒性

経口	: 分類できない
経皮	: 分類できない
吸入 (気体)	: 区分に該当しない
吸入 (蒸気)	: 分類できない
吸入 (粉じん、ミスト)	: 分類できない
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	: 区分1 (重篤な皮膚の薬傷及び目の損傷)
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	: 区分1 (重篤な目の損傷)
呼吸器感作性	: 分類できない
皮膚感作性	: 区分に該当しない
生殖細胞変異原性	: 区分に該当しない
発がん性	: 分類できない
生殖毒性	: 分類できない
特定標的臓器毒性、単回ばく露	: 区分2 (呼吸器への刺激のおそれ)
特定標的臓器毒性、反復ばく露	: 分類できない
誤えん有害性	: 分類できない
その他	: 情報なし

12. 環境影響情報(GHS 混合物分類判定ラベル作成システム NITE-Gmiccs による)

生態毒性

水生環境有害性 短期 : 区分1 (水生生物に非常に強い毒性)

水生環境有害性 長期 : 区分1 (長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性)

残留性/分解性 : 情報なし

生体蓄積性	: 情報なし
土壌中の移動性	: 情報なし
オゾン層有害性	: 分類できない
他の有害影響	: 情報なし

1 3. 廃棄上の注意

廃棄方法

廃棄残余物

廃液およびマッドはそのまま廃棄すると土地、河川を汚染して 農作物、魚介類に影響を及ぼすので、そのまま廃棄してはならない。

都道府県知事の許可を受けた廃棄物処理業者に依頼すること。

汚染容器及び包装処分上の注意

空容器を処分する時は、内容物を完全に除去した後に、各自治体の指定する方法で処理する。

1 4. 輸送上の注意

国際規制

国連分類：クラス 8 (腐食性物質)

国連番号：1791

品名 (国連輸送品名)：次亜塩素酸塩

容器等級

容器等級 2 (次亜塩素酸塩、水溶液、有効塩素の含有率が 16 重量%以上のもの)

容器等級 3(次亜塩素酸塩、水溶液、有効塩素の含有率が 5 重量%を超え 16 重量%未満のもの)

航空規制情報

施行規則第 194 条危険物告示別表第 1 腐食性物質

国内規制

海上規制情報

船舶安全法 危険物船舶運送及び貯蔵規則第 2,3 条危険物告示第 1 腐食性物質

港則法 施行規則第 12 条危険物告示 腐食性物質

国連番号：1791

品名：次亜塩素酸ナトリウム

輸送の特定の安全対策及び条件

腐食性が強いので、運搬容器及び移液設備 (配管、弁、ポンプなど) は耐食性のあるものを使用する。分解しやすいので、遠距離輸送はなるべく避けた方が良い。直接日光下の輸送は、温度上昇によって分解が促進されるので好ましくない。

酸と接触すると分解して塩素ガスを放出するので、小型容器詰めのものとは酸類 との混載は避ける。専用容器を他の物質と共同してはならない。

小型容器で輸送する場合、栓(ガス抜き栓)の部分を上にして積載する

容器の破損、腐食、漏洩等、異常の無いことを確認して積み込み、荷崩れに防止を確実に
食品や飼料と一緒に輸送してはならない

重量物を上乗せしない

輸送車両、船舶に備えるべき防災機材のほか防毒マスク等の保護具、災害防止薬剤を積載すると共に、表示、警戒票等を点検、確認する

移送時にイエローカードの保持が必要

緊急時応急措置指針番号：154

15. 適用法令

労働安全衛生法

表示、通知対象物に該当しない。

労働安全衛生法施行令

別表第1 危険物 酸化性の物 ただし固形のみ

毒物及び劇物取締法

毒劇物に該当しない

航空法

施行規則第194条告示別表第1 腐食性物質

船舶安全法

危険物船舶運送及び貯蔵規則 第2, 3条危険物告示別表第1 腐食性物質

海洋汚染防止法

政令別表第1 有害性物質 Y類物質 (濃度15重量%以下)

港則法

施行規則第12条 危険物 (腐食性物質)

食品衛生法

食品添加物

水濁法

指定物質 (政令第3条の3第11号)

16. その他の情報

本 SDS は JIS Z7253:2019 に準拠して作成しています。

参考資料等

- ・独立行政法人 製品評価技術基盤機構(NITE)ホームページ
- ・職場のあんぜんサイト 化学物質 GHS モデル SDS 情報
- ・日本工業規格 JIS Z 7253 : 2019 GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法- ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)
- ・JIS Z 7252:2019 GHS に基づく化学品の分類方法

その他の参考文献

日本ソーダ工業会編、 “安全衛生手帳 2002”

日本ソーダ工業会編、 “次亜塩素酸ソーダ輸送設備取扱マニュアル” (1990)

【注意】

この情報は新しい知見及び試験等により改正されることがあります。内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確さ、完全性を保証するものではありません。法令の改正及び新しい知見に基づいて改正されることがあります。尚、営業秘密である成分情報は非開示(濃度においては幅記載を含む)と記載している場合があります。注意事項は通常の手扱いを対象としたものですが、特別な手扱いをする場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を講じた上で実施願います。すべての化学品には未知の有害性があり得るために、手扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願い申し上げます。